

JACS-IBM 論文プロポーザル賞優秀賞受賞報告

第 11 期大学院生 竹内 亮介
(第 9 期 OB)

◆JACS-IBM 論文プロポーザル賞とは...?

日本消費者行動研究学会が主催している研究構想コンテストにて、優秀な成績を収めた報告者に授与されるのが「JACS-IBM 論文プロポーザル賞」です。当コンテストの特徴は、若手研究者が、完成した研究ではなく、これから行う研究の構想を発表するという点にあります。今年度は 11 月に明治学院大学で開催された日本消費者行動研究学会コンファレンスにて発表が行われ、その発表に対する審査結果に基づき、最優秀賞と優秀賞の選出が行われました。ただし、年によっては、受賞者が選出されないこともあるため、大変厳しいコンテストとして知られています。

◆執筆論文の概要「競争的な広告環境における消費者知識の役割」

1970 年代以降、「消費者が日常的に多数の広告に露出する環境——すなわち、競争的な広告環境——においては、広告に関する記憶の忘却が生じる」という議論が定説とされてきました。そのような状況において、近年、「競争的な広告環境においては、広告に関する記憶の改善が観察される」という大胆な仮説を提示した先行研究が登場したものの、その研究には深刻な理論的欠陥が潜んでいました。本プロポーザルでは、この問題を解決すべく、「ある広告の情報とその競合広告の情報の関係性」に着眼することによって、新仮説を提唱いたしました。この新仮説によって初めて、競争に伴う記憶の忘却を大前提とする議論に対して、真っ向から意義を唱えることができるようになると期待されます。

◆執筆後記

日曜日の 9 時 15 分開始であったにもかかわらず会場には多くの方々が駆け付け、コンペならではの独特の緊張感が場内に漂う中、著者は、一番手として発表させていただきました。結果的には、大変嬉しいことに、優秀賞をいただくことができました。しかしながら、「最優秀賞該当者なし」という結果も同時に、受け止めなければなりません。学会を通じて得た気付きを活かしつつ、過去に最優秀賞を獲得された小野ゼミの先輩方に少しでも近付けるよう、引き続き、研鑽を積んでまいります。



プレゼンテーション中の著者